公民館報 まつもと

発行
2023
9/30

松本市広報R5-37
●問い合わせ 中央公民館
TEL 32-1132 FAX 37-1153
●編集 公民館報編集委員会
●印刷 株式会社プラルト

シリーズ　受け継ぎ伝える松本のたから 63

赤のコラボレーション

すすき川花火大会の大輪と
心臓を思いやる「健康ハートの日」にちなみ
ライトアップされた松本城

（撮影 2023.8.10　城山）

「町会」・「組」の掲示板

市のホームページに、町会単位の情報を掲載する仕組みが作られ、身近な情報の発信と閲覧が可能になりました

誰でも情報が受け取れるように、松本市のホームページに地区の配布物や回覧物を掲載しています。７月からは掲載範囲を拡大し、町会や町会内のグループ（組やこども会などの小さな単位）からの掲載が可能になり、地域の掲示板としてリニューアルしました。

実際に掲示板の活用を開始した神林地区地域づくり伊藤裕明センター長に、今後の活用について話を伺いました。

さっそく、「夏まつり」の情報を掲載

回覧版からスタート

まずは地区と同様にそれぞれの町会独自の回覧物の掲示を始めました。町会の方々と協力しながら、掲載を増やしたいと思いを語ります。

提出された電子データや紙の資料の掲載は、地域づくりセンターで判断を行い、締め切りはなく掲載します。

広がる可能性

今までは配布物や回覧物の情報掲載としての役割が大きかったのですが、個人情報等、一部掲載できないものがあるものの、掲載内容に制限はありません。実際に地域づくりセンター内の「掲示板に貼られているスポーツチームのメンバー募集」など掲示していけるか検討しているとのことです。

小さい単位での情報掲載が進み、例えば「犬を探しています」のような、より身近な情報も掲載希望があるかもしれません。「こんなことを掲載していきたい・いただきたい」というアイデアがあればお気軽にご相談ください」と話しています。

運用は始まったばかりで、まだ掲載は一部の地区・町会にとどまりますが、アイデア次第で面白い活用が期待できそうです。

掲示を希望する方はこちら

地域の掲示板はこちら

掲示の方法　閲覧の方法は二次元コードから選択してお進みください

田川地区の皆さんへ

松本市から　他団体から　福祉ひろばから　公民館から

町会会員の皆さんへ

各町会から　町会内のグループ

各地区で様々な掲示板が展開されています

わがまち自慢「あんさんぶる」芳川地区

新しい形の多世代交流の場ができました

芳川地区のイオンタウン松本村井の２階に「こどもプラザ」と「福祉ひろば」の機能を併せ持つ松本市初の施設「あんさんぶる」がオープンしました。

芳川こどもプラザは土・日・祝日も利用ができ、市内プラザでは一番広いフロアで思いっきりハイハイができます。就学前の乳幼児と保護者が対象の施設で、オープン当初は芳川地区をはじめ松本市内外から来場し、多い時には１４０組２８０人以上の親子で賑わいました。

土日利用する方はご家族で「あんさんぶる」に来館し、お父さんがお子さんと一緒に遊んでいる間にお母さんが買い物をしている姿も多く見られます。

南部地域に多世代交流の場が誕生

芳川地区みなみひろばでは、「ひろばの利用者の方が会話をして、元気をもらうことがある。こどもプラザに来ているお母さんたちが参加できるようなことも考えていきたい」とコーディネーターの矢ヶ崎さんは抱負を語ります。また体操や工作の開催日には、お子さんやお母さんが参加することもあります。こどもプラザの市川センター長は「プラザとひろばの利用者が交流する様子はとても微笑ましい。このような時間が増えて自然な交流ができていくと思う」と話してくれました。

こどもプラザは、とにかく大人気！

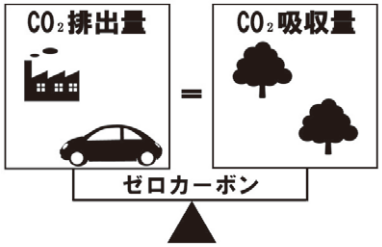
視点

⑬ 信州大学 茅野恒秀（ちのつねひで） 准教授

みんなでチャレンジ

地道な調査

各地で異常な暑さ、局地的な大雨による甚大な被害が続出しているなか、環境問題への取り組みは急務です。



温室効果ガスの排出量を実質ゼロに

信州大学の茅野准教授（人文学部）は、環境社会学を専門にしており、研究の柱は森林とエネルギーです。これまでに、安曇野市内のまきストーブの導入状況、松本市および周辺地域の太陽光発電所の実態を調べました。特にまきストーブの調査は、煙突が設置された家を一軒ずつ歩いて探しており「これだけ地道にフィールドワークを行った研究室は他にない」と胸を張ります。

現在は、乗鞍高原がゼロカーボンパークの認定を受けたことから、学生と現地に行き、聞き取り調査や推進体制づくりに取り組んでいます。

徹底した現場主義

茅野先生が指導する社会学研究室は、現場主義を大切にしています。環境問題が存在する社会は複雑であり、実体をとらえないと解決策が見えてこないからです。環境問題は技術面だけを解決すれば良いのではなく、家庭環境や地域内の人間関係など、背後にある社会課題にアプローチする必要があります。

茅野先生の研究室は、地域と丁寧に向き合い、地域を理解したうえで、住民が環境問題に主体的に関われる仕組みづくりを行っています。

私たちにできることを

松本市は環境省の脱炭素先行地域に選定されています。茅野先生が「自分にできること、地域にできることはたくさんある」と述べるように、松本市民として一人ひとりができることを考え、地域からアクションを起こしていくことが求められます。今こそ松本の風土である住民自治力を活かすときです。

▲乗鞍でのヒアリング調査

茅野先生にインタビュー！

写真でつづる まつもと今昔㊷

～ 昭和・平成・令和と続く ～

（撮影：1979.8.14）

第33回お城盆踊り、大勢の人がやぐらを囲んで踊っている。写真からもその賑わいが伝わってくる。当時はこの盆踊りが、夏の大きな楽しみだったのだろう。昭和のよき日を思いださせる。

（撮影：2023.8.16）

人々が街に戻ってきた。台風がそれて天候に恵まれたこともあり、数年ぶりに3日間の開催となった。市民や国内外の観光客の参加も多かった。75回目を迎えたこの伝統が、今後も続くことを願う。

おこひる

退職して何か心に風が吹くような毎日、そんな時広報まつもとに「じいちゃん先生」の募集があり後先考えず応募した。面接は通過、次は保育園で子どもたちと遊ぶ実習、孫のクラスに当たりビックリ。事情を話し別のクラスで実習、現在の保育園に赴任した▼非農家で何をどうして良いか戸惑ったが、畑の耕作はネットで調べたり娘の嫁ぎ先の母さんに聞いたりの毎日だった。まず土作りという事で自作のサイロを作り地域の老人会の協力を得て落ち葉を集め、堆肥作りをした。二年目から良好な野菜がたくさん採れてビックリ▼今年はまずレタス、キャベツを給食で使用。園長と相談し年長の子どもたちの家に持ち帰らせた。家の方々から無農薬なのにりっぱな野菜だとほめられた。今後ジャガイモ、サツマイモなど収穫した野菜を持ち帰らせる計画だ▼畑は保育園の下にあり、毎度子どもたちのガンバレコールや笑い声を聞きながら耕作し、通勤時は卒園した小学生たちからおはようのハイタッチ、薬より効く子どものパワーをもらい健康で頑張りたい。

再発見!!

まつもと地名かたり ①

豊かな湧水と国史跡「井川城」　鎌田地区

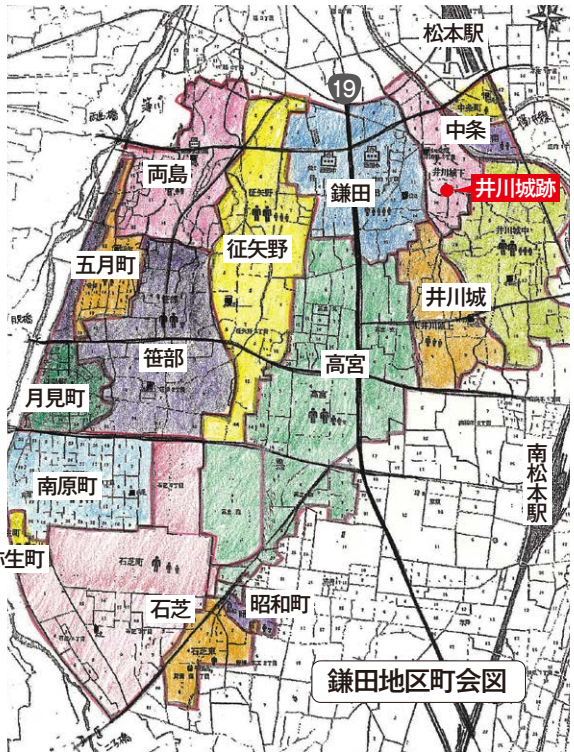
今回から新シリーズが始まります。地名の由来をもとに、今後も伝え続けたい地区の歴史や伝承文化を紹介していきます。

鎌田地区は、奈良井川と田川の合流点の南側、松本駅に比較的近い住宅地域です。人口約２万人、新旧17町会で構成される市内で最も大きな地区です。

井川（城）

この地域の開発は、建武の新政に信濃守護となった小笠原貞宗が小島の井川の地に守護所を構えた（井川城下区・１３４０年頃）ことに始まります。井は豊かな湧水地のことです。戦国時代に林城へ移るまで、この地は信濃国の政治の中心地でした。

平成29（２０１７）年、井川城跡は里山辺の林城跡とともに「小笠原氏城跡」として国史跡に指定されました。館跡は守護にふさわしい規模で、武家の暮らしぶりを物語る中国陶磁器や座敷飾り、茶道具や碁石など、出土品が多数発掘されています。



鎌田地区町会図

鎌田

「かま」は水の湧き出る釜状の地形のことで、鎌田は湧水地帯の水田の意味です。権現の池に棲む龍神に祈ると、人寄せ時に椀膳を借りられるという伝承がありました。

中世は井川城の城下町で、守護神の天満宮が祀られていました。江戸時代は庄内組鎌田村でした。

両島（りょうしま）

上島と下島が一緒になり両島村となりました。江戸時代初期に赤痢がまん延したため、毎年２月８日に巨大な足半（草履）を作り村境の高い木につるし、疫病神を追い払う「お八日念仏と足半」行事として今に伝わっています。コトヨウカ行事として松本市重要無形文化財に指定されています。

今は祠のみの井川城跡

松本平の野鳥たち

オナガ　（2023年3月松本市南原　写真提供：信州野鳥の会）

ハトより一回り大きく、カラスの仲間と思えぬスマートで水色の美しい鳥。
黒いベレー帽をかぶったような頭、長い尾は遠目でもわかりやすい。群れていることが多く、「ゲーイ」とか「ゲーイキュキュキュ」と、しわがれた声でよく鳴きかわす。

まつもと散歩

夏の光が
秋の風と交差する
季節はくり返し 次の未来へ

（撮影：2023.8.13 新村）